

元気創造研究センター
年 報

2022 年度

星 城 大 学

目 次

目 次

1. 星城大学元気創造研究センターの概要	2
2. 2022 年度の実施事業	
2-1. 助成事業の概要	
2-1-1. 星城大学元気創造研究センター助成金 2022 年度公募要項	3
2-1-2. 星城大学元気創造研究センター 研究スタートアップ助成金 2022 年度公募要項	6
2-2. 助成研究報告	10
2-3. 2022 年度研究報告会	19
2-4. 2023 年度助成研究募集	20
2-5. 科研費獲得を目指す教員のための申請セミナー	23
2-6. 科研費申請書閲覧制度の新設に向けて	25
3. 広報活動	26
編集後記	27

1. 元氣創造研究センターの概要

1. 元気創造研究センターの概要

元気創造研究センターは、活力のある地域づくりや健康で文化的な市民生活の実現、行動力に富んだ学生の育成につながる研究などの推進を図る拠点として、平成23年4月に開設されました。地域と積極的に連携しつつ様々な研究的アプローチから「地域や市民・学生が元気になる」研究活動を展開し、地域社会や学生にその成果を還元することを目的としています。

当センターでは、研究者個々人の自律的な研究活動を尊重し、その上で大学全体として調和を保ち相乗効果をもたらすような研究を推進するため、ホロニックな（包括的な）運営を行います。具体的な運営の基本方針として、次の3点を掲げています。

- ① 「知の拠点」としての研究活動の高度化・活性化
- ② 研究成果の学生・地域社会への還元
- ③ 学内外に開かれた運営

当センターの設置目的を達成するため、学際的な共同研究や地域の関係者との共同研究などに対する助成を行うほか、競争的資金の獲得に向けた支援を行います。また、地域社会や学生に対して研究成果を還元するために、講演会や学術研究発表会などを開催します。

これらの活動を通して、当センターでは学内での研究風土の醸成を目指すとともに、元気な地域社会の実現に向けた研究活動を積極的に推進していきます。

2. 2022 年度の実施事業

2-1. 助成研究の概要

2-2. 助成研究報告

2-3. 2022 年度研究報告会

2-4. 2023 年度助成研究募集

2-5. 科研費獲得を目指す
教員のための申請セミナー

2-6. 科研費申請書閲覧制度の新設に向けて

2-1. 助成研究の概要

2-1-1. 星城大学元気創造研究センター助成金

2022 年度公募要項

1. 助成の趣旨

元気創造研究センターは 1.「活力ある地域社会」をつくり「健康で文化的な市民生活」を実現すること、2.「行動力に富んだ学生諸君」を教育・育成することを目指し設立されました。この設立趣旨に沿って、当研究センターは、「地域社会や市民、学生が元気になる」研究を地域とともに推進し、地域社会や大学教育の発展・向上に貢献してまいります。

このような目的を達成するため、当研究センターの研究助成は、1.独創的で学術上意義の大きい研究で、かつ科学研究費の獲得につながる研究 2.教育の質向上につながる研究を積極的に支援してまいります。

2. 助成対象

- 1) 本学の教員を研究代表者とするグループ研究であること。個人研究は対象としません。
- 2) 単一学部の教員複数名でのグループ研究でも構いませんが、学際的な見地から、異なる研究分野を専門とするメンバーおよび異なる学部のメンバーからなる研究を優先します。
- 3) 研究者によるグループだけではなく、地域文化の発展に寄与する活動を行っている方々との共同研究を歓迎します。
- 4) 研究内容・計画・予算等の点において、実現可能性の高い具体的な研究であること。既に完了している研究については助成対象としません。ただし、他の研究費に申請中または受給中のものと研究内容が類似している場合は、違いを明確にしてください。
- 5) 助成の趣旨に沿った研究であり、今後の発展が望めるもの。

3. 助成金額および助成対象期間

- 1) 年間の助成件数および各々の助成金額は、元気創造研究センター運営委員会において決定します。一件ごとの助成金額は、研究内容によって異なりますが 50 万円を上限とします。1 万円未満は切り捨てとなります。
- 2) 助成対象期間は、2022 年 4 月から 2023 年 3 月までの 1 年間とします。
- 3) 同一内容での継続助成は、最長 3 年間とします。継続を希望する場合は、1 年ごとに申請書を提出してください。元気創造研究センター運営委員会において改めて審査、決

定します。

- 4) 複数年度計画で申請し採択された後、予定の研究期間を満了することなく継続申請しない場合には、研究代表者はその理由を書面にて元気創造研究センター運営委員会に提出してください。

4. 助成金の使途費目

- 1) 助成金の使途は、研究目的を達成するために必要な費目とします。
- 2) 申請代表者や共同研究者が所属する組織の間接経費、一般管理費等は助成の対象としません。

5. 選考方法

- 1) 選考は、元気創造研究センター運営委員会が、所定の申請書類をもとに行います。申請書類以外の「参考資料」を提出いただいても、審査の対象にはなりません。なお、必要に応じて、研究代表者へのヒアリングを行う場合があります。
- 2) 選考は、元気創造研究センター運営委員会が以下の点を総合的に考慮して実施します。
 - ① 応募内容が元気創造研究センターの「助成の趣旨」（1. 助成の趣旨を参照）に沿っている
 - ② 研究内容が独創的である
 - ③ 予算も含めた研究計画が研究目的に合致している
 - ④ 学内外との共同研究である（2. の助成対象要件に該当すること）

6. 申請〆切

- 1) 公募期間は 2021年11月22日（月）から2022年1月14日（金）17:00 までです。
- 2) 研究助成申請書に必要事項を記入してください。
- 3) 期限までに、上記を電子メール（PDF変換したデータ）並びに書面（両面印刷押印済みのもの）で、総務・経理課科研等担当者（都筑）までご提出ください。
メールアドレス： jrpc@seijoh-u.ac.jp（元気創造研究センター宛て）

7. 助成の決定

2022年2月下旬予定。選考結果は2月末までに各研究代表者に文書にてご連絡します。

8. 研究報告会での報告と報告書の提出

- 1) 採択された研究は、年度末に開催される研究報告会での報告が義務づけられています。
- 2) 助成期間終了後に、元気創造研究センター運営委員会に成果報告書を提出していただきます。
- 3) 研究成果を数年以内に論文として報告していただきます。その場合、星城大学元気創造研究センター助成金（英文：Seijoh University Joint Research Promoting Grant）で行った研究であることを記載してください。

9. 個人情報の取り扱いについて

申請書にご記入いただいた個人情報は、研究助成選考以外の目的には使用しません。

10. 申請書記入上の注意

- 1) 申請は、当センター指定の申請書を用い、必ず枠内に日本語でご記入ください。
- 2) フォントは11ポイントとしてください（表、図の部分は除く）。
- 3) 「印」の指示がある欄には、必ずご捺印ください。
- 4) 必要事項はすべて申請書にもれなく記入し、必要書類外の資料は添付しないでください。別紙参照などを用いた申請、申請書フォーマットやページ数の変更があった申請などは、原則として受理しませんので、ご注意ください。
- 5) 記入上の注意事項
 - ① 採択研究への助成期間は1～3年間とします。ただし、2年目以降の助成を確約するものではありません。前年度までの研究経過を審査したうえで助成継続の可否を決定します。
 - ② 研究の最終目標を具体的に明記してください。
 - ③ 研究終了後の成果発表の方法を具体的に記載してください（学会名、雑誌名等）。

以上

本助成について1件の応募があり、審査の結果採択となった。

2-1-2. 星城大学元気創造研究センター

研究スタートアップ助成金 2022 年度公募要項

1. 助成の趣旨

元気創造研究センターは 1.「活力ある地域社会」をつくり「健康で文化的な市民生活」を実現すること、2.「行動力に富んだ学生諸君」を教育・育成することを目指し設立されました。この設立趣旨に沿って、当研究センターは、「地域社会や市民、学生が元気になる」研究を地域とともに推進し、地域社会や大学教育の発展・向上に貢献してまいります。

このような目的を達成するため、当研究センターの研究助成は、1.独創的で学術上意義の大きい研究で、かつ科学研究費の獲得につながる研究 2.教育の質向上につながる研究を積極的に支援してまいります。

研究スタートアップ助成金では、主として科学研究費の獲得に向けた研究活動を支援し、同研究費への応募を促進することを目的としています。

2. 助成対象

- 1) 本学の教員が個人で行う研究、あるいは本学の教員が代表として行う共同研究であり、助成対象期間中に完了する研究（単年度の研究）であること。
- 2) 申請者が、申請年度の科学研究費助成事業に応募しており、申請年度の 4 月 1 日現在において次の 3 項目のいずれかに該当し、かつ申請年度の科学研究費助成事業に採択されていないこと。
 - (ア) 45 歳以下
 - (イ) 准教授以下
 - (ウ) 入職 3 年以内
- 3) 研究内容・計画・予算等の点において、実現可能性の高い具体的な研究であること。既に完了している研究については助成対象としません。
- 4) 助成の趣旨に沿った研究であり、今後の発展が望めるもの。
- 5) 同年度の星城大学元気創造研究センター助成金の採択者（研究代表者）について、重複申請を認めない。

3. 助成金額および助成対象期間

- 1) 年間の助成件数および各々の助成金額は、元気創造研究センター運営委員会において決定します。一件の助成金額は、原則 20 万円以内とします。
- 2) 助成対象期間は、採択決定後から 2023 年 3 月末までとします。

4. 助成金の使途費目

- 1) 助成金の使途は、研究目的を達成するために必要な費目とします。
- 2) 申請代表者や共同研究者が所属する組織の間接経費、一般管理費等は助成の対象としません。

5. 選考方法

- 1) 選考は、元気創造研究センター運営委員会が、申請者が研究代表者として応募した申請年度の科学研究費助成事業への応募書類をもとに行います。ただし、応募時から内容を修正していただいても構いません。申請書類以外の「参考資料」を提出いただいても、審査の対象にはなりません。なお、必要に応じて、研究代表者へのヒアリングを行う場合があります。
- 2) 選考は、元気創造研究センター運営委員会が以下の点を総合的に考慮して実施します。なお、応募者多数の場合、一件ごとの助成金額を確保するため、申請者の年齢が若い方を優先することがあります。
 - ① 応募内容が助成金の趣旨に沿っている
 - ② 研究内容が独創的である
 - ③ 予算も含めた研究計画が研究目的に合致している

6. 申請〆切

公募期間は 2022 年 3 月 24 日（木）から 2022 年 4 月 20 日（水）17：00 までです。

7. 提出書類

- 1) 次の書類を、上記締切り期日までに電子メールで送信してください。
メールアドレス：jrpc@seijoh-u.ac.jp（元気創造研究センター宛て）
 - ① 申請者が研究代表者として応募した 2022 年度の科学研究費助成事業への応募書類の PDF ファイル（科研費電子申請システムを利用してダウンロードした作成済み

データ)、あるいは 当該応募書類に修正を加えた PDF ファイル

② 「星城大学元気創造研究センター研究スタートアップ助成金 研究助成申請書」

2) 上記 1) ②「星城大学元気創造研究センター研究スタートアップ助成金 研究助成申請書」について 次の項目の記入をお願いします。

- ・ 本研究助成による実際の研究実施概要
2022 年度科学研究費助成事業への応募研究の中で、本研究助成によって実際に実施する研究概要を簡潔に記入して下さい
- ・ 研究経費
合計金額が 20 万円以内となるよう作成して下さい。
金額と使用内容を具体的に記入して下さい。
- ・ 学部研究費との研究内容相違点（学部研究費重複申請者のみ記入して下さい）
本書類は、行幅、文字サイズ等を調整して、1 ページに収めてください。

3) 科学研究費応募テーマを次年度に変更する研究者は、上記 1) ①、②に記載されている書類ではなく、次の書類を、申請締切り期日までに電子メールで送信してください。

- ① 「星城大学元気創造研究センター助成金 研究助成申請書」書式を使用して、「研究スタートアップ助成金 研究助成申請書」として提出してください。その際、申請書 1 ページ 1 行目の標題の横に 1 マスあけて、赤字で「研究スタートアップ」と表記してください。なお、当該申請書類については、2 名の査読者により審査を行い、その審査結果に基づき、元気創造研究センターが選考を行います。

本項の定めは、今年度科学研究費に応募して不採択となった研究者が、次年度の科学研究費応募テーマを変更する場合のみを対象とします。今年度科学研究費に応募実績のない研究者は、該当しません。

8. 助成の決定

2022 年 4 月中に開催する第 1 回本センター運営委員会で選考し、その後稟議承認手続きを経て、申請者に文書にてご連絡します。

前項目 7. 3) の「科学研究費応募テーマを次年度に変更する」申請課題に関しては、査読者による審査が行われるため、5 月に開催する第 2 回本センター運営委員会で選考を行うこととします。

9. 科学研究費補助金への応募と研究報告会での報告

- 1) 採択された者は、助成期間中に公募される科学研究費助成事業に対して、採択された研究を基にした研究課題で応募することが義務づけられます。応募しない場合、原

則として、助成金の返還を求めます。

- 2) 採択された者は、年度末に開催される研究報告会にて、本研究課題を報告していただきます。
- 3) 本助成金を基にした研究成果を発表する際には、星城大学元気創造研究センター助成金（英文：Seijoh University Joint Research Promoting Grant）で行った研究であることを記載してください。

1 0. 個人情報の取り扱いについて

申請時に取得した個人情報は、研究助成選考以外の目的には使用しません。

1 1. その他

申請者のうち、希望者に対して、科学研究費助成事業への応募書類に関するアドバイスを行います。希望者は、日本学術振興会からの審査結果の開示を受けてから、元気創造研究センターまでお申し出ください。

1 2. 本件問い合わせ先

総務・経理課 都筑（内線 1115）

本助成について1件の応募があり、審査の結果採択となった。

2-2. 助成研究報告

【センター助成制度】

研究題目

意思表示が出来ない重症児の馬介在活動の効果
(助成期間 2022～2022 年度)

研究代表者

林原 千夏

分担研究者

松本 美穂

(湯の山乗馬クラブ)

背景・目的

馬介在活動には様々な障害の者が参加する。表情で感情を示すことが出来ない者も含まれる。ご両親、インストラクターから「機能訓練的に馬介在活動を行ってはいるが、本当に楽しんでいるのだろうか。調べる方法はないのか」という声を聞いたことがあり、生理的指標を使って、しかも簡便に対象者が楽しんでいるかを調べたいと思った。

これまでも唾液アミラーゼ測定により乗馬でストレスが軽減しているか調べた研究は存在する。しかし殆どが健常者や、唾液アミラーゼと併用して心理検査が出来る者が対象であった。重症児で乗馬以外の活動時に唾液アミラーゼでストレス評価している論文はいくつか見られた。今回は中等度から重度の障害児による馬介在活動で、子どもたちがストレスを感じているのか、また乗馬、エサやり、触れるなど活動によってストレス度が違うかどうか調べた。

対象・方法

対象：A乗馬クラブで乗馬をしている障害を持つ者。方法：以下の時点での唾液アミラーゼ値を測定する。「乗馬前日の楽しいことをしている時間」「馬行くよ」の声掛けの時「車に乗った時」「駐車場に到着した時」「馬に近づいたとき」「馬に触れたとき」「乗馬後」「餌をやった後」。

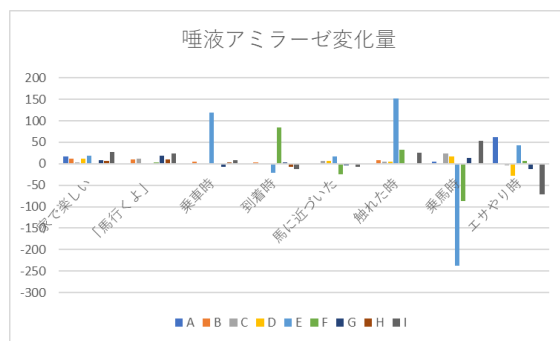


図1.全対象者のアミラーゼ変化量

「車に乗った時」「駐車場に到着した時」「馬に近づいたとき」「馬に触れたとき」「乗馬後」「餌をやった後」。また中等度の障害で楽しいの表現ができる対象者には Visual Analog Scale (VAS)で「楽しい⇔楽しくない」の表現をしてもらいアミラーゼ値と比較する。解析:それぞれの活動時点のアミラーゼ値の変化量から各々の活動のストレス度合いを調査する。

経過・結果

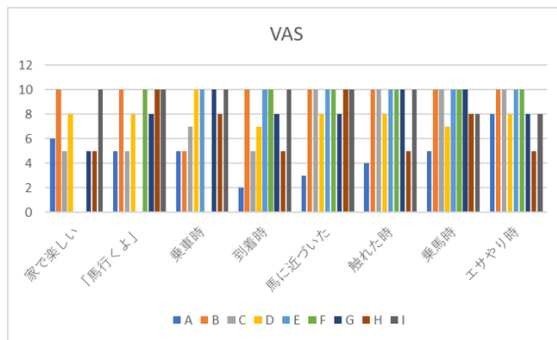


図2. 全対象者のVAS

乗馬時にはストレスがかかることが分かった。乗馬時、エサやり時にアミラーゼ値が下がる者がいた。

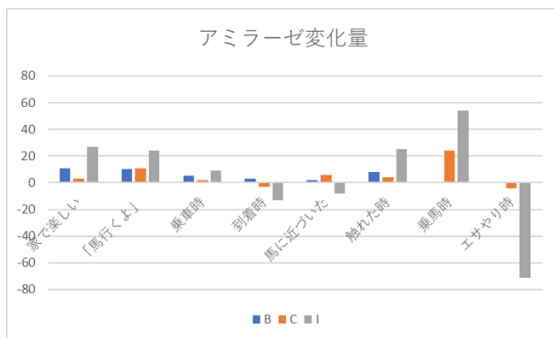


図3. 身体障害（3名）のアミラーゼ変化量

Wilcoxon 符号付順位検定では、近づいた時の変化量：0.75、触れた時の変化量：0.21、乗馬時の変化量：0.92、エサやり時の変化量：0.60 であった。有意な差ではないが乗馬時にアミラーゼ値が下がる者がいた。

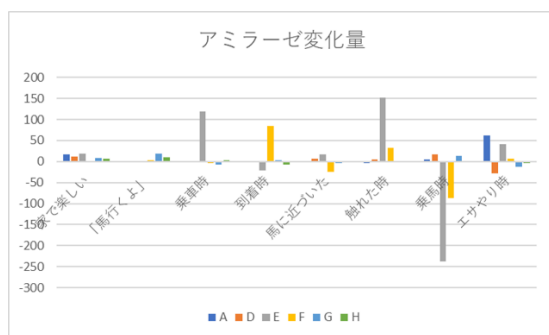


図4.知的情緒障害（6名）のアミラーゼ変化量

9名の参加があった。今回VASが使えないほどの重症児の参加はなかった。VASの使える中等度児を対象にVASとアミラーゼ値の比較をすることとした。

Wilcoxon 符号付順位検定では、近づいた時の変化量：0.77、触れた時の変化量：0.03、乗馬時の変化量：0.67、エサやり時の変化量：0.78であった。図1及び2から、楽しいからと言ってアミラーゼ値が低くはならないことがわかった。また触

Wilcoxon 符号付順位検定では、近づいた時の変化量：1.00、触れた時の変化量：0.11、

乗馬時の変化量：0.18、エサやり時の変化量：0.29であった。有意な差ではないが、エサやり時にアミラーゼが下がる者がいた。有意な差ではないが、乗馬時にアミラーゼ値が上がる者がいた。

アミラーゼ値が低くなりえる活動は「知的情緒障害児の乗馬」、「身体障害児のエサやり」であった。触れる時には有意にアミラーゼ値が高くなった。

考察・結論

ストレスが低くなる活動が必ずしも「楽しい」活動ではなかった。

ストレスが低くなりえる活動は知的情緒障害児の乗馬であったが、自閉症者で

は前庭覚刺激が喜ばれることと関連している可能性がある。

ストレスが低くなりえる活動は身体障害児のエサやりであった。エサやりはストレスなくできる活動といえることが分かった。乗馬は身体機能に働きかけるので、少なからずストレスのかかる活動であるのかもしれない。

触覚過敏を持つ対象者も多いため、馬に触れる時にはストレスがかかるのかもしれない。

限界

今回は9名しか対象にしておらず、選択バイアスがあるかもしれない。

健常者でのアミラーゼ測定がまだ出来ておらず、比較する必要がある。

今後の方針

健常者でのクレペリン時のアミラーゼ測定をし、唾液アミラーゼがストレスの指標になることを示していく必要がある。また対象者数を増やして検証していく必要がある。

関連する研究成果・報告等 (2022～2022 年度)

論文・予稿

まだ研究途中のため、未発表。

講演・口頭発表等

まだ研究途中のため、未発表。

【研究スタートアップ助成制度】

研究題目

買い物中の身体活動量増加の動機付け賦活を目的としたポスターの作成
(助成期間 2022 年度)

研究代表者

岩井 宏治

背景・目的

身体活動とは、「安静にしている状態より多くのエネルギーを消費するすべての動作のこと」を指し、厚生労働省の指針(健康日本 21)では、1日の平均歩数の目標値を男性 9,200 歩、女性 8,300 歩程度としている。しかし、多くの人は身体活動が不足しており、身体活動の低下は、心不全¹⁾や慢性閉塞性肺疾患²⁾、糖尿病³⁾など、多くの内科系疾患において予後に影響する因子である。また近年では、サルコペニアやフレイルなどの身体的虚弱が社会問題となっており、それらの多くは身体活動が低下している⁴⁾。そのため、日常的に身体活動量を増加させることが社会的に重要となる。また身体活動の範囲は、屋内・屋外を包括したものであるが、先行報告において、雨の日や気温が高い日および低い日は、屋外での身体活動量が低下することが報告されている⁵⁾。そのため天気や気温などの環境要因は交絡因子として考慮する必要がある。従って、日常的に身体活動を増加させるためには、天候や気温に左右されることがないような環境下において、行動変容のための適切な動機付けが必要であることが示唆される。

身体活動に関する動機付けを賦活する方法として、Mouri らは⁶⁾、「買い物リハビリテーション」という取り組みを紹介している。また Nomura らは⁷⁾、屋内の一つである駅構内の階段にて動機付けのメッセージバナーを設置したところ、階段を使用する人が有意に増加したことを報告した。そこで小売店内にメッセージバナーを貼付することで行動変容をきたし、買い物中の身体活動が増加するかを検討することを目標に、今回はメッセージバナーを入れたポスター作成およびアンケート調査を行った。

方法

1. デザインの作成

今回のデザイン作成においては、①誰にでもすぐにわかること、②メッセージ性の高いメッセージバナー(キャッチコピー)を入れることを課題とした。①においては、言葉を使わなくても情報伝達が可能な、単純化された視覚記号であるピクトグラムを用いること、②においては、「買い物しながら健康になろう」というメッセージを入れることとし、これらの条件のもとに宮川印刷株式会社とともに、2 パターンのポスター作成を行った。

2. アンケート調査の実施

星城大学リハビリテーション学部理学療法学専攻の1-4回生を対象に、2つのポスターを掲示し、「小売店に貼付してあったら、どちらの方が身体活動の賦活が促されそうですか？」という問いに対し、アンケート調査を行った。

結果

メッセージバナーデザインの試案

宮川印刷株式会社と共同でデザイン作成を行い、以下の2つのデザインを作成した(図1-A, 1-B)。

アンケート調査結果

4学年計146例に対しアンケート調査を行った。結果、貼付してあったら、より身体活動が賦活されそうなのは、試案Aが59例(40%)、試案Bが87例(60%)と試案Bが優勢であった(図2)。次に性別による違いを検討した。まず男性(79例)では、試案Aが36例(46%)、試案Bが43例(54%)と、ほぼ同等であった(図3)。一方、女性(67例)では試案Aが23例(34%)、試案Bが44例(66%)と、試案Bがより多くの支持を集めた(図4)。



図1 メッセージバナーの試案

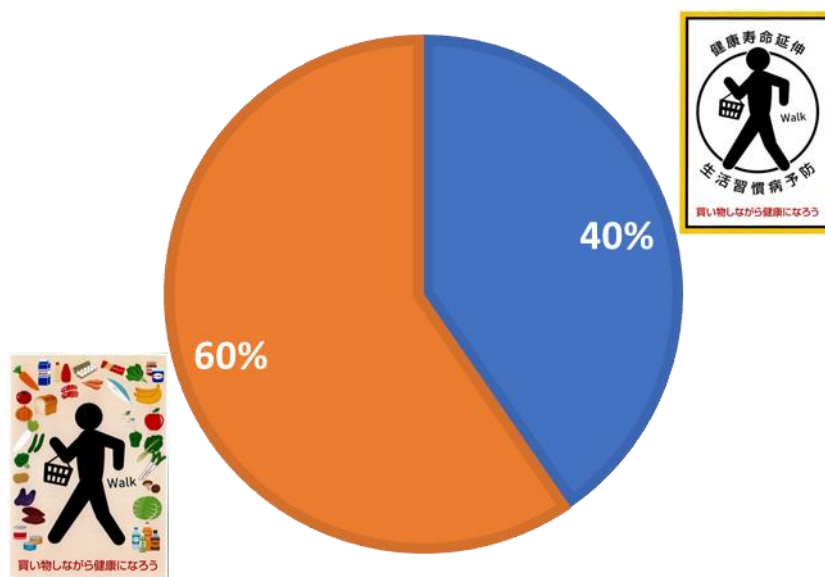


図2 アンケート調査(全体)

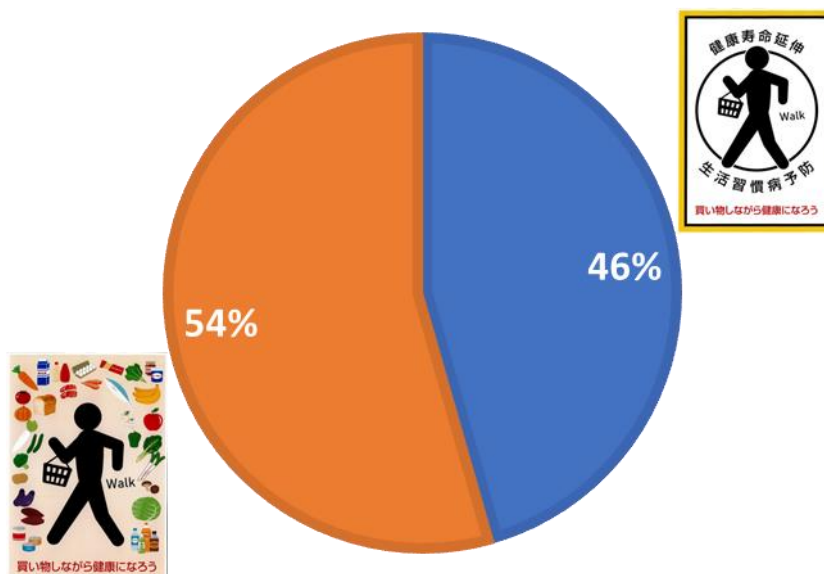


図3 アンケート調査(男性)

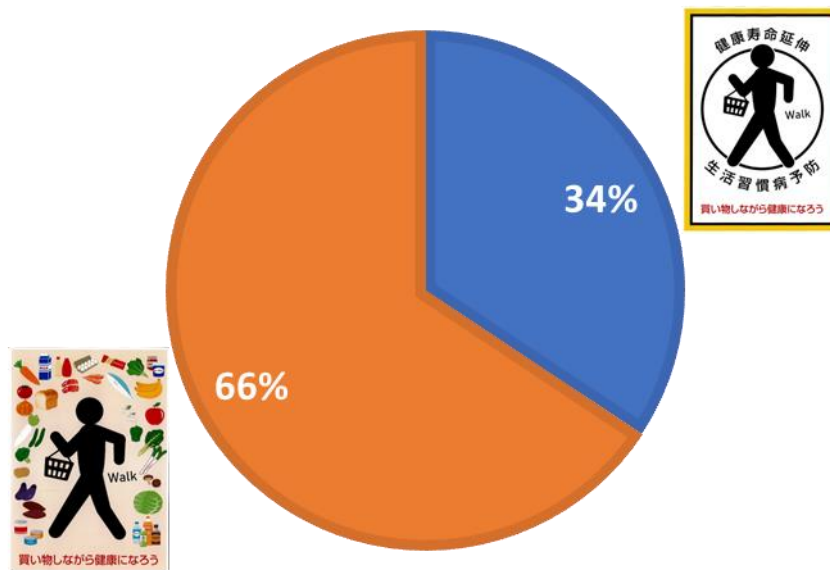


図4 アンケート調査(女性)

考察

身体活動とは、体力維持・向上を目的に意図した継続性のある「運動」と、日常生活における労働・家事等を包括した「生活活動」の和である。身体活動を高めることの重要性は周知の通りであるが 1-4)、運動を維持することは容易ではない。一方で、生活活動は日常生活を成立させるうえで必要な身体活動であり、普遍的な行動である。そのため、我々は日常生活に欠かすことができない買い物という行為をしながらに、身体活動量を高めることができないかを考えた。その動機付けの方策として、誰にでもすぐわかることを念頭に、ピクトグラムを用いたポスターにメッセージバナーを付け加え、作成することとした。先行報告において、ピクトグラムなどの視覚的メッセージは健康増進のための行動変容に有効である可能性が指摘されており 8)、Van Calster らは 9)、ピクトグラムやビデオの提示で階段の利用者が増加したことを報告している。同様に Nomura ら 7) はメッセージバナーによる階段利用者の増加を報告している。これらのことから、ピクトグラムとメッセージバナーの組み合わせは買い物客の身体活動賦活に有効ではないかと推測した。

完成したメッセージバナーについて本学理学療法専攻の学生にアンケート調査を行ったところ、全体の 6 割の学生が試案②を選択した。また、性別による違いで検討したところ、男性では概ね試案①と試案②で差を認めなかったが、女性では試案②を 66% が支持した。女性に試案②が支持された理由として、試案②の方が食品や飲料水のイラストが多く配置され、色彩が豊であることが考えられる。Abramov ら 10, 11) は、色の違いを見分けることや、色彩認識能力が男性より女性の方が優れていること、特に青、緑、黄色の識別は女性の方が優れていることを報告している。そのため、買い物をイメージしやすいイラストの配置、色彩の多さが、色の違いや色彩認識能力が高い女性の支持を集めた要因と推測された。

一般的に買い物の担い手が女性に多いことを勘案すると、女性で高い支持を集めた試案②を中心に実地調査へ繋げていくのが妥当と考えられた。

結論

身体活動を高めるために、「生活活動」に含まれる買い物に着目し、その方策として、身体活動を賦活するためのポスター作成を試みた。

ポスターはピクトグラムを用い、さらにメッセージ性の高いメッセージバナーを入れ、2つの試作を作成した。完成した2つの試作について、本学理学療法学専攻学生にアンケート調査を行ったところ、試案②の方に支持が集まり、特に女性からの支持が多かった。

引用文献

- 1) Belardinelli R, Georgiou D, Cianci G, Purcaro A: 10-year exercise training in chronic heart failure: a randomized controlled trial. *J Am Coll Cardiol* 60, 1521-1528, 2012
- 2) Waschki B, Kirsten A, Holz O, Müller KC, Meyer T, Watz H, Magnussen H: Physical activity is the strongest predictor of all-cause mortality in patients with COPD: a prospective cohort study. *Chest* 140, 331-342, 2011
- 3) Yerramalla MS, Fayosse A, Dugravot A, Tabak AG, Kivimäki M, Singh-Manoux A, Sabia S: Association of moderate and vigorous physical activity with incidence of type 2 diabetes and subsequent mortality: 27year follow-up of the Whitehall II study. *Diabetologia* 63, 537-548, 2020
- 4) Meier NF, Lee DC: Physical activity and sarcopenia in older adults. *Aging Clin Exp Res* 32, 1675-1687, 2020
- 5) Nick O, James F: Climate change may alter human physical activity patterns. *Nat Hum Behav*, 2017
- 6) Mouri N, Ohta R, Sana C: Effects of Shopping Rehabilitation on Older People's Daily Activities. *Int J Environ Res Public Health* 19, 569, 2022
- 7) Nomura T, Yoshimoto Y, Akezaki Y, Sato A: Changing behavioral patterns to promote physical activity with motivational signs. *Environ Health Prev Med* 14, 20-25, 2009
- 8) Sugiyama S, Okuda M, Kinoshita T, Inada K, Tateishi H, Uehara M, Hobara T: Association between visual message and health knowledge in a 4-month follow-up study at worksites. *J Occup Health* 56, 465-472, 2011
- 9) Van Calster L, Van Hoecke AS, Octaef A, Boen F: Does a video displaying a stair climbing model increase stair use in a worksite setting? *Public Health* 149, 11-20, 2017
- 10) Abramov I, Gordon J, Feldman O, Chavarga A: Sex and vision II: color appearance of monochromatic lights. *Biol Sex Differ* 3, 21, 2012

- 11) Abramov I, Gordon J, Feldman O, Chavarga A. Sex & vision I: Spatio-temporal resolution. *Biol Sex Differ* 3, 20, 2012

2-3. 2022 年度研究報告会

2-4. 2023 年度助成研究募集

2-5. 科研費獲得を目指す

教員のための申請セミナー

2-6. 科研費申請書閲覧制度の

新設に向けて

2-3. 2022 年度研究報告会

2022 年度元気創造研究センター助成研究報告会開催のご案内

2022 年度元気創造研究センター助成研究として採択された 2 件の研究について、次の通り報告会を開催致します。本学の研究活動の更なる活性化を図るため、ぜひともご参加下さい。

1. 日 時：2023 年 3 月 7 日（火） 11：00～
2. 開催場所：4301 教室
3. プログラム
 - ・ 11：00～11：10 学長あいさつ
 - ・ 11：10～11：50
 - 1) センター助成研究報告（1 演者 20 分：うち発表 10～15 分）
 - ・「意思表示が出来ない重症児の馬介在活動の効果」
研究代表者：林原千夏 分担者：松本美穂
 - 2) スタートアップ助成研究報告（1 演者 20 分：うち発表 10～15 分）
 - ・「買い物中の身体活動促進の為のメッセージバナーによる動機付け効果に関する挑戦的研究」
研究代表者：岩井宏治
 - ・ 11：50～11：55 閉会のあいさつ

なお、報告者の方は別送した所定様式の研究成果報告書を報告会当日までに下記メールアドレスまで送付して下さい。

連絡先：星城大学元気創造研究センター 事務局 都筑
メールアドレス：jrpc@seijoh-u.ac.jp（元気創造研究センター宛）

2022 年度研究報告会については、対面開催でおこなった。参加者は経営学部教員 14 名、リハビリテーション学部教員 22 名、外部研究協力者 1 名に加え、今年度より新たな取組みとして学生の参加を開始したが、参加は 1 名のみであった。

2-4. 2023 年度星城大学元気創造研究センター助成研究募集

1. 助成の趣旨

元気創造研究センターは 1.「活力ある地域社会」をつくり「健康で文化的な市民生活」を実現すること、2.「行動力に富んだ学生諸君」を教育・育成することを目指し設立されました。この設立趣旨に沿って、当研究センターは、「地域社会や市民、学生が元気になる」研究を地域とともに推進し、地域社会や大学教育の発展・向上に貢献してまいります。

このような目的を達成するため、当研究センターの研究助成は、1.独創的で学術上意義の大きい研究で、かつ科学研究費の獲得につながる研究 2.教育の質向上につながる研究を積極的に支援してまいります。

2. 助成対象

- 1) 本学の教員を研究代表者とするグループ研究であること。個人研究は対象としません。
- 2) 単一学部の教員複数名でのグループ研究でも構いませんが、学際的な見地から、異なる研究分野を専門とするメンバーおよび異なる学部のメンバーからなる研究を優先します。
- 3) 研究者によるグループだけではなく、地域文化の発展に寄与する活動を行っている方々との共同研究を歓迎します。
- 4) 研究内容・計画・予算等の点において、実現可能性の高い具体的な研究であること。既に完了している研究については助成対象としません。ただし、他の研究費に申請中または受給中のものと研究内容が類似している場合は、違いを明確にしてください。
- 5) 助成の趣旨に沿った研究であり、今後の発展が望めるもの。

3. 助成金額および助成対象期間

- 1) 年間の助成件数および各々の助成金額は、元気創造研究センター運営委員会において決定します。一件ごとの助成金額は、研究内容によって異なりますが 50 万円を上限とします。1 万円未満は切り捨てとなります。
- 2) 助成対象期間は、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの 1 年間とします。
- 3) 同一内容での継続助成は、最長 3 年間とします。継続を希望する場合は、1 年ごとに申請書を提出してください。元気創造研究センター運営委員会において改めて審査、決定します。

- 4) 複数年度計画で申請し採択された後、予定の研究期間を満了することなく継続申請しない場合には、研究代表者はその理由を書面にて元気創造研究センター運営委員会に提出してください。

4. 助成金の使途費目

- 1) 助成金の使途は、研究目的を達成するために必要な費目とします。
- 2) 申請代表者や共同研究者が所属する組織の間接経費、一般管理費等は助成の対象としません。

5. 選考方法

- 1) 選考は、元気創造研究センター運営委員会が、所定の申請書類をもとに行います。申請書類以外の「参考資料」を提出いただいても、審査の対象にはなりません。なお、必要に応じて、研究代表者へのヒアリングを行う場合があります。
- 2) 選考は、元気創造研究センター運営委員会が以下の点を総合的に考慮して実施します。
 - ① 応募内容が元気創造研究センターの「助成の趣旨」（1. 助成の趣旨を参照）に沿っている
 - ② 研究内容が独創的である
 - ③ 予算も含めた研究計画が研究目的に合致している
 - ④ 学内外との共同研究である（2. の助成対象要件に該当すること）

6. 申請〆切

- 1) 公募期間は 2022年11月30日（水）から2023年1月16日（月）17:00までです。
- 2) 研究助成申請書に必要事項を記入してください。
- 3) 期限までに、上記を電子メール（PDF変換したデータ）並びに書面（両面印刷押印済みのもの）で、総務・経理課科研等担当者（都筑）までご提出ください。
メールアドレス： jrpc@seijoh-u.ac.jp（元気創造研究センター宛て）

7. 助成の決定

2023年3月上旬予定。選考結果は3月10日までに各研究代表者に文書にてご連絡します。

8. 研究報告会での報告と報告書の提出

- 1) 採択された研究は、年度末に開催される研究報告会での報告が義務づけられています。
- 2) 助成期間終了後に、元気創造研究センター運営委員会に成果報告書を提出していただきます。
- 3) 研究成果を数年以内に論文として報告していただきます。その場合、星城大学元気創造研究センター助成金（英文：Seijoh University Joint Research Promoting Grant）で行った研究であることを記載してください。

9. 個人情報の取り扱いについて

申請書にご記入いただいた個人情報は、研究助成選考以外の目的には使用しません。

10. 申請書記入上の注意

- 1) 申請は、当センター指定の申請書を用い、必ず枠内に日本語でご記入ください。
- 2) フォントは11ポイントとしてください（表、図の部分は除く）。
- 3) 「印」の指示がある欄には、必ずご捺印ください。
- 4) 必要事項はすべて申請書にもれなく記入し、必要書類外の資料は添付しないでください。別紙参照などを用いた申請、申請書フォーマットやページ数の変更があった申請などは、原則として受理しませんので、ご注意ください。
- 5) 記入上の注意事項
 - ① 採択研究への助成期間は1～3年間とします。ただし、2年目以降の助成を確約するものではありません。前年度までの研究経過を審査したうえで助成継続の可否を決定します。
 - ② 研究の最終目標を具体的に明記してください。
 - ③ 研究終了後の成果発表の方法を具体的に記載してください（学会名、雑誌名等）。

本公募に対して1件の応募があり、審査の結果採択となった。

2-5. 科研費獲得を目指す教員のための申請セミナー

令和4年度 元気創造研究センター

「科研費獲得を目指す教員のための申請説明会」開催のお知らせ

平素より元気創造研究センターの活動に御協力いただき、誠にありがとうございます。今年度も表題の説明会を開催させていただきますので、御参加をお願い致します。なお、昨年と同様、今年度もオンライン開催となり、2部構成となっています。1部と2部でログイン情報が異なりますので御注意下さい。

1. 第2部出席について事前登録のお願い

第2部へのアクセスのために、次のURLから事前参加登録を行って下さい。登録完了後に入力したメールアドレスへアクセス情報が送信されます。当日の第2部への参加に必要となりますので、大切に保管して下さい。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_N1MNtOkpSo68PRO6VkeRag

ウェビナー登録



トピック 星城大学_科研費講演会

説明 2021年8月4日(水) 10:00~11:45 (90分) ※9:45から入室可能

時刻 2021年8月4日 10:00 AM 大阪、札幌、東京



* 必須情報

名*

姓*

メールアドレス*

メールアドレスを再入力*

登録時に提供する情報は、アカウントオーナーおよびホストと共有されます。アカウントオーナーとホストは、その情報を規約とプライバシーポリシーに従って使用・共有できます。

登録

上記の画面に必要な事項をご入力下さい。入力するメールアドレスは、大学のアドレス（〇〇〇〇@seijoh-u.ac.jp）です。入力が完了したら「登録」をクリックして下さい。

2. 開催日程

令和4年8月19日（金）

3. タイムテーブル

【第1部】

9:15	～	9:20	開会挨拶	元気創造研究センター長	古川	公宣
9:20	～	9:25	学長挨拶	学長	石田	隆城
9:25	～	9:50	科研費申請手続等の説明	総務・経理課	都筑	洋一

Zoom ログイン情報

<https://zoom.us/j/91335988206>

ミーティング ID: 913 3598 8206

パスワード: 718545

【第2部】 —————これ以降、ウェビナーにログインして下さい—————

10:00 ～ 11:45 科研費申請支援講演会（質疑応答時間含む）

ロバスト・ジャパン株式会社 矢野 寛士 様

【講演内容】

- 2022年度科研費の最新トピックス
- 科学技術政策と科研費の動向
- 評価ポイントをふまえた研究計画調書の作成戦略
- 研究計画調書のブラッシュアップ
- 挑戦的研究申請への対応
- 申請分野（審査区分）の特徴分析（15要素による評価）

Zoom ウェビナー情報：事前登録後に届いたメールに指定された URL にアクセスして下さい。

研修会は2部構成とし、第1部では元気創造研究センター運営委員都筑より科研費申請についての注意事項および不正防止に関する説明を行った。第2部では昨年同様にロバスト・ジャパン(株)より講師を招聘して講演を行った。参加者は経営学部19名、リハビリテーション学部22名、事務職員3名の計44名であった。また、これに加え1部には本学研究員と大学院生6名も参加した。

2-6. 科研費申請書閲覧制度の新設に向けて

科研費申請期限の前倒しなど諸般の理由により、来年度より「科研費獲得を目指す教員のための申請セミナー」の開催が困難となった。対応策として元気創造研究センターでは、「科研費申請書閲覧制度」の新設を検討した。本制度はセミナー時に行ったアンケートにおいて、採択課題の申請書閲覧希望という回答が毎年一定数見られることに着目し、本学研究者が過去5年間に採択された研究課題の内、他の学内研究者に申請書を閲覧許可できるものを募集し、リストを作成する。リストを公開し、閲覧を希望する学内研究者とのマッチングを行う制度を2023年度より開始することとした。

3. 広報活動

本学ウェブサイト内の【元気創造研究センター】ページの内容を一部変更するとともに、年度ごとの情報更新を行った。

編集後記

2022年度星城大学元気創造研究センター年報を発刊する運びとなりました。

元気創造研究センターの活動は『活力ある地域づくりや健康で文化的な市民生活の実現、行動力に富んだ学生の育成をめざし、様々な研究的アプローチから「地域や市民が元気になる」研究活動を展開すること』を目的としています。

昨年度に引き続き、「センター助成制度」と「研究スタートアップ助成制度」による研究支援を行いました。科研費採択はもとより、その他競争的資金獲得を目指して今後も支援を続けていきたいと考えています。また、今後さらに事業内容の充実を図るとともに、その成果の発信を地域・社会に向けて、積極的に行うと同時に学内研究風土の醸成を創造していきたいと考えています。

どうかご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。

2022年度星城大学元気創造研究センター運営委員会 委員

センター長：古川 公宣

副センター長：小島 廣光

委員：崔 俊

加藤 省三

北野 達也

高濱 優子

中谷 直史

岩井 宏治

石田 孝徳

都筑 洋一

2022 年度

元気創造研究センター 年報

2023 年 7 月 1 日発行

編集・発行 星城大学

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台 2-172

TEL : 052-601-6000 (代)

FAX : 052-601-6010